京城新聞

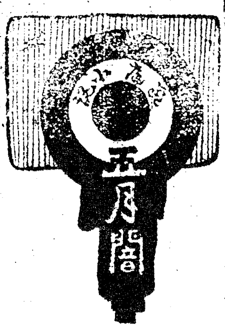
京城新聞

農業の改良

韓國農事の改良に就ては專門家及實地經驗者に依りて屢々唱導せらるゝ處なるが、未だ之を充分に實現せしむるに至らず、今更言ふ迄もなく韓國は農本國にして其殷盛は農業の發達に俟たざる可らず、唯農業の改良と云へば容易なるが如くなれども、數千年來馴熟せる農業を改めて新規の方法に慣れしむるは至難の業と云はざる可らず、其改良にも二種ありて一は技術に屬し一は經營上に屬す、技術上の改良は當種の選擇播種及栽培の方法にして經營上の改良は灌漑水利及地主と小作との關係資本の供給等な[illegible]之を爲す能はざるべしと雖も、此中最も簡易に行はるべき者よりして着々之を實行するの外あらず、當局者に於ても夫々玆に注意せらるゝ所あらん、現に中村農務局長の如きは日本各地の農事を視察せられ殊に韓國の北方と氣候の稍々同一なる北海道の農業を實視せらる而して幾多應用すべきものを看取せられたりと云ふ、之れ韓國農事の改良に就て最も喜ぶべき福音たるの或あるなり、韓國在留邦人の多くは九州中國邊のもの多き爲に其作物及經營も從て暖國的にして近寒の地には適せざるもの多し、全羅忠清の如き稍々温暖なる地に於ては我九州中國邊の農業方法を移すも可なれども、北方近寒の地殊に荒漠たる土壤に於ては能く北海道若しくは西比利亞滿州方面に採らざる可らず、京城附近の某大農場に於て九州米の試作をなしたるに悉く腐敗せりとの説あり、其原因は田水溜滯して流通せざるが爲なりと云ふ、之れ明に暖國邊の近寒の地に適せざるを證するものならむ、惟ふに印度の開放的家屋を近寒の地に建設するの不適當なるが如く、農業も亦氣候に適する作物をなさゞる可らず、人或は云はむ、韓國に於ては數千年來實地に經驗して其適種のものを栽培しつゝあるなり、唯夫れ之に改良を加ふれば可ならんと、然り現在のものに改良を加ふる事は無論なりと雖も、余輩の見る處を以てすれば咸鏡平安の如き地方に於ては將さに寒帶地に適合せる植物を缺く、幾多廣漠たる荒地のあるにも拘らず、小麥玉蜀黍玉葱馬鈴薯等を栽培する所なし、之れ其地方農民が農事の知識に乏しきには依るならんが畢竟之れ缺くるが爲なり、在留邦人にして農事を經營するものありと雖も南邊の如く暖國のものを移し其氣候に適せざる植物を知らず、爲に往々不結果を歎じつゝあり、中村農務局長の北海道農業の應用は此點に於て一新面目を啓發するを得ん乎、農業上に於て收穫に行はるゝものは穀倉及乾燥場なき爲に風雨に曝しとなし、乾燥なき爲に稻束の腐敗を來たすは收穫上に大なる差異を生ずべし、殊に韓國農民は藁あると雖も、叺の如き製作せず其大部分は燃料に費消し去りて顧みず、米穀を包容する叺は皆日本より供給を仰ぎつゝあり、此等も農業經濟に於て忽にすべからざる問題たらん、其他道路の修築、地主と小作人間に於ける收獲の分配に就ても改良すべき點あるべし、是等は他日更に詳論すべし、今は唯簡易なる改良を速に實行せらるべきことを當局者に希望するものなり。

●坂出技師の演説

(二)港内水深の多いのを必要とします近時船舶の新法に大きくなるにつれまして水深の[illegible]り深きに過ぐときは錨鎖を長く入るゝ必要が出來て却て不便なるが先づ如何程大い船が來ても一向底の當らん程度の深さは入用であつて近年世界の造船術の變遷は巨大なる船舶其噸數に於ても長さに於ても又吃水に於ても益々大きくなりまして之れ一方には貨物の海運によるものは荷物の多くなるにつれて其船腹の大きければ大きいほど又速力の大なれば大なるほど經濟的であると云ふ點が少からざる理由は益々船の構造の太なるを加へまして此の趨勢は實に此十四五年來の事であります今日大西洋に於ける大なるものはルシタニア號の如きがありまして長二百三十八米噸數は三萬二千五百噸其吃水は十米に達しまして大西洋西岸の諸港に於ては港内岸壁も船舶の自由に之を出入せしむるに足るものは二三に過ぎない次第で造船業の發達が港を凌いだ有樣で國々の港にはやれ浚渫とか岸壁船渠の改築とかに苦心をして居る次第であります太平洋に於ける海運も從來は蘇士運河の水深七、五米に安心して居つたが近年此の運河も浚渫を進め水深八、五米を唱ふるに至らば中々吃水の深い巨船が東洋を襲ふ次第で現に是等に關係なく米國より横濱に向ふ船舶は急に大きくなりまして彼のミネソタ號噸數二万千噸長百九十一米吃水十米、又はモンゴリア號噸數二万五千噸長百八十六米の如き中々油斷の出來ない世の中になりました從て港内の水深は充分なことを申せば十二三米はほしいものです(未完)



(六十九) 河合柳葉

「其方の申す事は能く分つた、しかし予が彼の女を側妾に爲たゝめに、奥を貰ふ邪魔になると云ふなら、もう一生奥を迎ふる事は斷念して、彼の君子を奥の代りに置く事に致す、必ず心配致すな。」

ますく意外なる殿様の辭に、還恭は呆氣に取られて其顔を瞶めて居つたが。

「これは御前様のお辭とも覺えませぬ、彼の女中をお屋敷へお置き遊ばして宜しい程なら何で右や左と申し上げませう、恐らく申すと失禮かも存じませんが、假令如何程御標緻が宜しいにしても、御才智がお有り遊ばすに致した所で、華族家には華族家の習慣と云ふものがございます、又御室家には御室家の家法と習慣とがございまするゆゑ御祖先以來の家法と習慣とはお守りなさいませんと、第一御祖先へ對して申譯の辭が無いではござりませぬか、殊に氏素性とても正しいと申せば其までの事でござりますが、恐らく御族家などゝ比較すべき身分のものではあるまいかと考へます、若万一[illegible]にも御機嫌にでもなつた節には、それこそ由々敷き大事かと存じます、何故かなれば血統の善悪も定かに知れない女に出來ました子を見様を御前様の御兒様と披露する理にも參りませぬゆゑますく面倒な理になりはせんかと存じます、のみならず他に適當の御姫様をお迎へ遊ばす事の出來ない御境遇とでも申ならですが、夫こそ御皇族様からでも御降嫁を願はれる程の、御名門でありながら、殊更に氏素性の卑しいものをそれほど御懸望なさらずとも宜しいかと存じまする皇室の御藩屏たる由緒正しい御室家を大切とお思ひ遊ばしたら、どうぞ速に御斷念遊ばしまするやう、恐ながら御願ひ申します。」

「何と申しても、予の心に適つた女は君子より外にはない、御室侯爵とも云はるゝ身が、一應召連れて屋敷へ歸りながら、臣下のものが諫言いたしたからとて、今更暇が遣されると思ふか、此儀は予が自由に致すから、此上決して彼是申すな。」

と、やゝ不機嫌な樣子である。

「しかし御前様、斯う申すと失禮でございまするが、私は亡くなれ遊ばした大殿様から御前様のお身の上なり、御室家の取締に就きまして呉々も御遺言を受けて居りまするゆへ、設へ申す事はならないと仰せられましても、御家の御家名に關る事は、御機嫌を犯しても申上げなければ、大殿様へ對して私の義務が相濟みません、しかし御前様がかくまで御執心遊ばすものなら、必ず御斷念遊ばせとは申しませぬゆゑ、せめては立派な所から御姫様をお迎ひ遊ばしますそれまでの所、充分な御手當をお遣しになりまして、何れへかお預け遊しまして、御姫様がお越し遊ばされてから、それとなくお伽を、申付けなさるやうに致したらござりまする、此義だけはどうぞお聴容下されまするやう、此の通り叩頭してお願ひ申上げます。」

と、蜘蛛の如く平伏して頼むのであつた。

「いゝ、諫い、其方が何と申しても、予は[illegible]打棄て置けぬ[illegible]」

「ではございませうが、古へより忠言は耳に逆ひ易ひとか申しますれば、御前様が一圖に思召して居らつしやるゆゑ、何と申上げましてもお耳に逆ひますのでございませうが、決して御家のためなり、御前様のお爲に惡い事は申上げませぬ、どうぞ此の還恭が申すと思召さないで、大殿様の仰せだと思召してお承入が願ひたう存じまする。」

「いゝ、言はして置けば不禮千萬な、臣下の身分として主人に對して何と申すか、此上一言たりとも申して見よ其分には赦さんぞ。」

「では、これほどお願ひ申しましても。」

「いゝ、執拗い、今日限り暇を遣はす、退れッ。」

さ、席を蹴立てゝ、自分の室の方へ去つた酒川は、其後姿を見送りつゝ、ホロリと涙を零しつゝ殘念さうに退り出るのであつた。



●漢城便り

●伊藤統監の今回駐城日數は約三十日間との事に候が折角久々にて掛りたる統監府が年末に際して赤々流星の如く消去る事ともならば微城の冬景に一層の寂寥を加へ可申公れるもの此處何とか御思案ありてせめては來春三月頃迄引揚を延期せられんことを切望致候、此頃は政界も寂寥のみならず桂内閣に於て[illegible]すべしならんと被存候

●[illegible]る限りは種々三十日間内に統監政治の處理著しく比現狀以上に發展する變化事を遂行せられ得るものには無之候

●[illegible]公たる舞台に於て[illegible]

[illegible]得ざることと相成可申候

●世人說摩して曰く統監には韓内閣改造に意ありと又曰く李内閣を捨てゝ新内閣を造るの意ありと、記者を以て見ればソンな事はドーデも良しとして西部を進めて有意味なる根本的韓國問題に候

●清廷の騷動は清國の前途には無之候其の飛火が早晩半島にも來るべきは識者を俟たずして知る所に候、韓國問題をして支那問題の大渦中に卷込ましめなば夫こそ由々敷大事と相成可申候、欠斷なる伊藤公の決斷すべきは支那問題の表面に持揚らざる中と被存候

●經濟協會に於て坂出鳴海氏が爲たる「港灣の設備に就て」の講話は遉がに專門家の所說として余輩をして得るところ多からしめ申候、半島諸港の現在の設備は如何思ふて該に觸れは只茫然たる許に候

●救世軍は通俗耶蘇教傳道隊とも可申者に候、而るに一部の人々等は同軍の兵士を銃劍でも携へ戰爭でもするかの如く薄々彼等の行動を採り居候との事なるが幷は餘りに笑止の次第に候

●救世軍が至る所社會改善に盡力するは奇特の事に候、當國にても彼等は近々奴隸解放の事業に着手する由に候、奴隸とは韓人の強者が其家に養ふところの世襲的男女下人の事に候

東京電報

▲討伐隊行賞

韓國暴徒討伐隊に對する行賞は四十二年一月中に軍司令部の調査を經へ陸軍省に回付し同省にて再調査を經陸相より上奏裁可を經發表は來年二月頃なるべしと

雜報

●伊藤統監の獻品

伊藤統監は廿七日參內の砌り韓皇陛下皇后陛下太皇帝陛下慶善宮へ左の物品を進獻せられたり

一韓皇陛下　治髮具一式黃金色琥珀二卷
一皇后陛下　鼈甲製寫眞帖一冊琥珀二卷
一太皇帝陛下　治髮具一式煙色琥珀二卷
一慶善宮　琥珀二卷花瓶一個

尙は東京三越呉服店より玉座用御紋章入金襴椅子二脚皇帝皇后兩陛下に進獻方願出たるを以て同時に統監府より進獻したり

●統監の午餐會

廿七日春日艦乘組將校及大倉喜八郎氏等を[illegible]統監邸に於て乘組將校諸氏大倉喜八郎氏と共に午餐を共にせられたり

●極東水産保護

露國皇帝は曩に兩院の協賛を經たる極東水産保護法および沿黒龍州内水産監視規則並に沿黒龍總督府管内國有財産管理廳附屬臨時水産監督官制を裁可公布せられたるが同保護法は曩に下院委員會が可決したる原案と同一のものにして水産監視規則によれば[illegible]督は監督官および監視兵より成る漁業監督に屬し國有財産管理廳に隸し監視官の内一名は漁業監督官にして監視官の行爲に對し一般に監督をなすものなり又沿黒龍國有財産管理廳長官は右監督官の管轄を定め且又監視官および監視兵の交代を命じ監視官の任免は農務大臣之を行ひ監督官の權限は（一）自己管轄内の漁業を管理監督す（二）直接自己に隸屬する監視兵を指揮するにあり監視兵は當該監視官の推薦上申により國有財産管理長之を任免しその在職中は現役に在るものと認め一切の公役義務を免ぜられ現行水産監督規則を遵守し之を施行する義務を有す沿黒龍總督府監視廳附屬水産監督官制は臨時の性質を有し其有効年限は二ヶ年なりと

●財務監督局長會議

昨廿八日より度支部に於て財務監督局長會議を開き明年度計畫及び財務上の諸問題の審議をなすと

●善隣商業學校開校式

△式場　は明治町なる同校前庭に大天幕を張りて美くしく設備せられたり

△式の順序　は左の如し（午後一時擧行）

第一鈴　職員生徒着席
第二鈴　來賓着席
一理事、擧式の辭
一監事、本校創立の由來
一大倉喜八郎氏の演說
一統監　訓示
一來賓祝辭、演說
一生徒總代祝辭
一校長　答辭
一理事閉會の辭

△來賓には　伊藤統監曾禰副統監以下各大臣次官生徒父兄保證人其の他四百餘名にして伊藤統監は式場にて訓示演說をなしたる後李學相訓示演說をなす

△成績品展覽　當日教室内は生徒の成績品及び教授用品の陳列をなし來賓及び生徒父兄の展覽に供す

△紀念品贈與　當日の來賓及び生徒一同へ紀念として學校一覽紀念繪はがき菓子一折宛を式場にて贈呈す

△宴會　式後日本人倶樂部に於て來賓一同を日本人倶樂部に案内し晩餐會を催す

●對帝室の債權

帝室債務は目下臨時財產整理局に於て調査中なるが該債務は普通の債務と其の性質を異にするを以て同局に於ては其の讓渡又は典當は之を認めざる由に付若し誤て該債權の讓渡を受け又は典當として貸金をなす如き事あらば不測の損害を蒙ることあるべければ一般に注意を要すとの事なり

[illegible]れる債權に取り一大打擊たるには相違なきも國家當然の經濟上將來の利益たるべきや疑ひなしとせらる

●釜山公會堂建設

釜山に公會堂を建設すべしとは既に松井當理事官時代よりの宿題にして當路者に於ても既に之れが建設に關する具体的の案を得漸々起工の運びなりしも其の後理事官の交迭と共に稍々紛糾せる民團議問題のために[illegible]のなるが釜山の發展と共に公會堂建設の要は日に益々其の切實なるを感ずるに至り殊に數日前門司實業團の來訪に際しては更に一層の感を深うし龜山理事官及び追間會議所會頭其の他に於て内々打合せの向もあり愈近日を以て當路の間に協議を開かるべき筈なるが今其の目論見の内容を聞くに會議所附屬品館を撤廢して其の跡を敷地とし民團より金二萬圓會議所より一萬圓を支出し都合三萬圓を以て和風の宏壯閑闊なる建築物を爲すべく而して之れが管守は一に會議所の監視に委任の事となるべき筈にて尤も詳細の案件は會議所來年度換り前即ち明年三月頃までに會議所總會に於て署内決すべき豫定なりと猶は右の敷地は其の餘りに狹隘に過ぐると及び釜山の全景を展望するの位置を占め居らざる故を以て一部有力者の間に不贊成の弊を聞くも兎も角未だ確定せるものに非ざるを以て來る下打合會に於て愼重に採擇を過まらざるに出づべきかと云ふ

●日本鑛業の打擊

昨年來監督局長會議の度毎に討議せられたる鑛種追加の件は近く鑛業條例の改正を俟つて實施されんとす追加鑛種の重なるはアルミニューム及び雲母にして前者の如き其の需用近年甚く許りに增加し食器、鍋釜代用及び雜具等供給の範圍頗る廣く關西にありては但馬を以て著明の產地となし是等は從來普通所有者の所得に歸したれども爾後鑛種として取扱ふに到れば當然國家に所有權移轉すると共に出願者は何人にても其採鑛自由たるべく鑛業者中に新現象を見んとす更に亦新條例は從來の經驗に照し所謂山元に於ける惡弊を一掃せん爲現場管理人の資格を一定し徒らに自我の私慾を縱れ濫りに濫採亂掘の結果後進に手の附け樣もなからしむる如き處を永遠に除かん由なるが斯る正しき資格者を雇入れんことは一般鑛業者の頗る苦痛を感ずる所にして啻に適材を得るに苦しむのみならず從つて生ずべき各設備若くは經費の膨脹は引續く不況に濫面作

●安東縣材木の景況

目下安東市場に存在する木材員數は當地商人の手中にあるもの約十萬連外來商人の手に歸し居るもの約十二万連餘にして其大部分は三道浪頭六道溝大沙河子附近に集積しあり昨年に比すれば約二倍以上にして是れ全く本年木材需要用地不況の結果十分の賣行なかりしに外ならず目下清人間も一般金融逼迫の爲め調沒豆（大豆の空相場）の賣入多數にして相場は非常に下落し目下百石五百四五十兩内外を以て賣買をなし居れり故に商機に拔目なき商人は木材を明年迄集積し置くよりは寧ろ木材を賣放ち大豆買入の[illegible]場も高値を唱へる時機に拘らず比較的廉價を以て賣買し居れり本年上流伐採も採木公司着手時機の遲かりし結果明年は約本年流筏の半數位ひならんと云ふ

●三千浦の近況

目下晉州三千浦間には警備電話の架設中なるが來月上旬に至らば全部竣工すべく韓兩漁船會社の如きも該電話の一部使用を許され兩地間の漁船發着の通報をなし得るに至るべきか又た久しく宿題となり居たる晉州三千浦間の道路改修は現任黃觀察使が熱心なる盡力により來春三四月頃には着手し得べく尙は昨今兩地の聯絡交通として二臺の人力車を用ひ居れるが頗る便利にして里程七里を四時間四十五分にて疾驅し賃金は三圓なりと

●暴徒の逮捕

京城中署磚洞居前陸軍騎兵參校金龍基（三一）京畿道江華郡蓼渦里前江華兵丁金風龍（○○）の兩名は京城南署詩谷妓生及び西署東幕色酒家遊女等に沈溺遊蕩し其の擧動不審なるにより此の程警視廳訊問係に引致し取調べたるに金龍基は昨年七月黃海道白川郡に於て前木川郡守朴木川の率ふる暴徒に投じ暫時活動せる中同志擊のため左股に貫通創を受け加療全癒の後再び本年二月日本憲兵隊に追はれ延安郡鎭川浦に歸り表面裁縫店を開き江華島方面を橫行する暴徒主魁池弘允と通じ部下十名を縫工として率ひ一分隊長となり專ら暴徒の着服調製に從事中憲兵に發見せられ江華島ボルレム島に避難し同島に於て同じく着服調製中金員を携へ上京し遊蕩中なりし旨自供し金風龍は本年四月以來同じく池弘允の部下となり同方面に活動中池大將の命を受け金員を携へ金龍基搜索のため上京して遊逅し共に遊蕩中なりし旨を自供せり而して右の調査進行中仁川警察署長より金風基なる者江華島暴徒主魁にして金千四百圓を攜帶銃器買入のため上京し遊蕩中なるを以て逮捕方あり右の者に該當せる如きを以て仁川警察署に交渉の上目下取調中なりと云ふ

●地方の狀況

△天安管區　温陽牙山郡地方に出沒せし五六十名よりなる賊は目下出沒するを見聞せず其他の地方に於ては少數の賊出沒する情報あるのみ概して平穩なり

△洪州管區　海美瑞山郡地方には約三十名より成る賊の出沒今尙絶へず其他青陽郡地方には約百名より成る賊出沒せり又泰仁郡安眠島附近は目下平穩なり

△忠州管區　目下平穩なり青陽及江原道に近接せる忠州堤川郡には尙三十名より成る賊徒出沒の疑あり

△連山管區　忠清道に屬する地區は平穩にして人民は其堵に安んじ且つ農作物の豐饒なるより一般喜色を呈せり全羅北道に屬する地區にして茂朱錦溪郡地方には尙少數の[illegible]て市場の如き漸く活氣を呈するに至れり

△全州管區　淳昌任實古阜郡地方にて約三十名乃至八十名より成る賊の出沒絶へず其他慶尙南道に近接せる長水鎭安郡地方には約三十名より成る賊の出沒することあり全州附近は秩序全く回復し警官署の施設着々歩を進め商業漸次隆盛を呈し群山方面より輸入品目に增加し本邦居留民亦增加の傾向あり

●辯護士筆記試驗成績

過日法部に於て施行したる韓人辯護士筆記試驗に應じたる十二名の内及第したるもの左の如し

鄭求昌、黃鐘秀、尹世鎭、李鉦、金文煒

右の五名に對し明二十八日口述試驗を施行する由

●每日申報の地方勢力

各地の郵便取扱所に於て調査したる所なりと云ふを聞くに例の排日新聞大韓每日申報の勢力の大なるには一驚を喫したり皇城新聞、帝國新聞、國民新報、大韓新聞等の韓字新聞は勿論、邦人の購讀せる日本の各新聞紙と通計するも地方各郡における每日申報の購讀數には遙に及ばぬのである而して人氣不良を以て目さるゝ邑面ほど申報の讀者多く每日申報配布數の多少は人氣良否のバラメートルとなつて居る位である特に注意すべきは郵便取扱所に勤務せる韓人主事又は財務署勤務の韓人等迄が監督日本人の目を忍びて密に每日申報を愛讀して居るとである此多數の每日申報は更にヨリ多數の韓人に耽讀せられ彼の恐るべき毒筆は曖昧なる多數韓人の思想を支配しつゝあると云ふ

●洪陵山林の主管

東大門外洪陵附近の山林は今回農商工部の主管とし同部山林局此れを管理する事となれりと云ふ

●判檢事の任命

本日の官報を以て判檢事の任命を發表せられたるが右は今回新たに開廳さるべき區裁判所に任補さるゝ筈にて尙一兩日中に十四五名の任命ある由

●李鳳來の盜難

廿四日夜美洞なる李鳳來方に窃盗入り來り左記の金品を窃取し去りたるを以て目下所轄警署に於て嚴重搜査中なるも未だ犯人の手掛りを得ずと云ふ

百圓紙幣二十一枚、壹圓銀貨五十錢包百圓、一圓貨幣九十九枚、二十錢五十錢取混二百圓、五分銅貨二十五錢包百、漢城銀行株券五十枚、天一銀行株券四十九枚、家券二枚以上

●穀物協會檢査勵行

仁川穀物協會に於いて過日中總會を開き穀物檢査に關する諸種の事項を決したる上益々來月一日より[illegible]檢査を勵行する筈なりと

●農商技師一行歸城

[illegible]森林視察のため出張中なりし農商工部技師國技師の一行は一昨日歸京したるが同國氏等と共に出張したる[illegible]記官の一行は本道に[illegible]に寄港したる由にて廿八日木浦[illegible]釜山に立寄り本月末に歸京する筈也

●民團の民籍調査

京城民團に於ては既受居留届に依りて民籍調査に着手中なるが尙近く各戶に就き吏員を派出して精密なる調査を遂ぐる筈なるを以て吏員出張の際は便宜を與へられ戶籍謄本等をも提供せば此上もなき進捗を見るべしとなり

●江華島の暴徒

一昨日江華島を發して仁川署に歸來せし某巡査の報告する所を聞くに同島に於ける暴徒は未だ鎭定せず時々五十名位の團隊を組み小村に至りて强盜を働き居れるが數日前デントウジと稱する小村に約五十の暴徒現はれ同村寺院の下男を拉し去りたるが彼等の集散は自在にして若し討伐隊を見れば直に解散し巧に姿を匿し居れりと

●光濟號歸港

過日仁川より鴨綠江に向ひ同江にて浮標引揚工事をなし居たる光濟號は數日前同工事を終わり仁川に歸港し目下同港碇泊中なり

●飲食店の取締

仁川警察署にては近き將來に於いて市内飲食店取締規則及酌婦に關する取締規則を改正する筈なりと聞く

●憲兵中尉着任

騎兵第十四聯隊より當地憲兵隊に轉任を命ぜられたる憲兵中尉矢野助藏氏は本日着任したるが兩三日中に江界分遣所長として赴任する筈

●參政課長歸任

來城中なりし上村課長富家技師は昨廿七日開城に歸任せり

●水兵入京

春日艦乘組水兵若干名は廿七日午前十一時京城見物の爲め入京し市内を遊覽す

●排日新聞押收

排日派漢字新聞共立新報（十一月廿八日發行）の分は發賣頒布を禁止押收せられたりと

●京城基督敎會

日出町同敎會にて廿七、廿八、廿九の三日間左の講演ある由

廿七日　聖書の主意　北原利男
同　廿八日　聖書の感化　米澤牧師
　　聖書の研究　松本常太郎
同　廿九日　聖書の信仰　宗像四郎
同　聖書の組織　米澤牧師

●龍山西本願寺

本日午後七時說敎あり　鎌田開敎使

公人私人

▲安東豐（岐阜縣農會幹事）　廿六日入城不知火旅館
▲佐々木正太（全州財務監督局長）　廿六日入城富尾旅館
▲今井潔（同局事務官）　同上
▲加藤眞（同局主事）　同上
▲南賀康太郎（元山財務監督局稅務課長）　同上
▲竹藤金祐（參政部長）　廿六日開城へ向け出發
▲橫山直藏（韓商協一銀支店員）　廿六日歸任
▲加納萬次郎（九鐵運輸課長）　廿六日下[illegible]
▲三上案監（[illegible]部）　同上

●近事片々

▲淸國　攝政醇親王は獨逸に對して頗る好意を表し居るとの說あるが是果して然る乎

▲攝政　が果して獨逸に好意を表し居るとすれば淸國今後の外政は如何に成行くべき

▲如才　なきカイゼルは巴爾幹半島のみならず極東にまで機敏に外交策をなしつゝ有る

▲張之　洞は醇親王の顧問たるが如く繼々たる勢力ありと此際の顧問は適當の役者也

▲袁世　凱亦張之洞と好々傍より之を贊助するとの說あれば淸國の前途も亦好望なり

▲獨逸　の勢力如何に北京に樹立するとも英米亦拔からず其上帝國も亦之に加はるべし

▲併し　獨逸の機敏なるには驚く可し巴爾幹もモロツコも支那にも大なる潛勢力あり

▲獨逸　には外交官ならざる外交官ありて能く其國の首腦部に勢力を植付けるが感心

▲淸國　凶變に於て英國の活動足らざるが如き心地するが裏面の消息は如何なるべき

▲英國　は無論帝國と同一步調を取らるゝならむが只其政策を擇ふ所を異にするのみ

▲米國　も素より日英兩國の希望と異る所なければ三國の步調は先づ同一轍なるべし

▲唯だ　注目すべきは露佛の兩國なり此二國の政策として未だ何等の見るべき者なし

▲外交　の事は實に明日の事を測り知るべからざるも此際獨逸との提携はなからん乎

▲長谷　川大將歸朝して訪客に語るに暴徒討伐後の難事を慨歎せられしとは或は異乎

▲討伐　には軍隊を以てすれば容易なるも討伐後の所置當を得ざれは更に効力なしと

▲爾後　の所置否政策に就て暗に當を得ざるが如き言辭ありとの說もあり或は然らむ

▲內田　良平氏は統監府囑托を止めるとの說あるも然らば半島は最早見限りたるにや

▲一進　會の操縱に愛想を盡かしたるために非ざるべし囑托を解きて活動する積にや

▲一進　會の命脈も何となく悲觀せらるゝが更に發展すべき餘地ある乎敎て聞まほし

續奇緣（三） ひで子

亦も猪口を手にし乍ら
「拵した二人共、夫婦に成つたら、今夜の事を、決して忘れては成りません、死に代る愛、是れ程貴いものは、有りませんぞ
アハヽヽ、私はまだ獨身さ、だが戀の味は知めましたぜ」
喋つた程でもなかつしに、言辭はいつか、變つて來た、低い天井を暫らく眺めて、
「然し是は戀人さ、由緒切りの中間でも、相の身分と、趣源交されて、兎も角ても死のさ」
さうだ…棟木粘が…小庭の白葉樹の…葉…無い枝を、揺つて開戸を動かした、ドッと女の笑ふ聲は、表二階であつたらしい、
「夫れが如何して、今の身分の、正業で而も成功した、京城紳士も可笑しいが、此の且那様に成つたに就いては、女の意見、夫れが十九の美人の意見で、斯様成つたのは面白いでせう……丁度戰爭の年でした、其時分は箱師でもして、箱師と云ふは、汽車稼ぎですね、夫れで濱松邊りの夜行車の中で、玉に目星を付けてから、名古屋まで乘つたと思ひなせい、恐ろしい暴風雨の晩、乘客も少ない汽車でした」
を干して、男に差し、微笑を浮べて
「一分を對つた濱松で、其處は商賣で苦も無く取つたは、田紳の紙入さ……處が金太の運のつきで、到々判つた、エ、年貢を納めやうかと、度胸は据へたが、凡夫だね、ソラで逃して逃げ様と、近くに居た、歌舞の菅藏、夫れ者上りの丸髷の、袂にツッと、忍ばした、是れでまづ〳〵繩は逃れた、夫れが十月八日の晩さ」
此時、女が清しい瞳は、動いたが、其儘に亦俯いた、返した猪口を受けて金太は
「新橋で下りてから、女の跡を付けて車で飛ばした先きは上野の杜、東照宮の裏山で到々女を見失つた、是れはと思つて立行る時、艶な聲で、
「貴郎、さあ返しませう」

●寒牡丹

…有名な寒牡丹は世の習ひ…
東京小石川區戸崎町七十六番地に近藤仁太郎といふ者あり職業は定かにわからねども平素の暮し向きより察すれば内に相當の資産あるらしく何不自由なき身とは見えざるが此頃仁太郎は榮光町の相場に手を出し其の揚句が大失敗し果ては懐與ふのなき身となり此頃は此[illegible]に客を待つ人力車夫となりて同時に長男の重太郎をば別に自家の大工として勤めさせ妹のれ[illegible]とば氏小林富次郎のライオン齒磨き工場に通ひせしが昔に打つて變る悲慘な境遇に親子四人細き煙を立て辛くも其の日をば送りつるが世は有爲轉變の習ひなれや却説も前日の紙上に於て孫兵衛の愛妾といふはツマリ此のタカのことにてタカは取りも直さず仁太郎の長女なるが此のタカは未だ當時十七才の花の盛りにも拘はらず能く父を助け朝は早くより夜も遲く迄ライオン工場に通ひ居りし中兄の重太郎が徴兵適齡に入營する事となりたればタカの一家は恰も大事な柱を取られしと同じことにて家計に困難を來し其の日〳〵の暮し向きにさへ差し支ふる有様となりしより今はしも別に之れといふ方法も浮ばずイツソのこと家を暴して北海道にでも出稼ぎせんと決心せしも運の神は何時如何なる場合に舞ひ込まんも計り難く予てよりタカの孝心深く且つ女工仲間での勉强家なるを見拔き居る清水と云ふ取締がいつしか此のことを聞き込み主人小林氏と相談の上思ひ立ちて工場一部の取締となし同時に從來より倍額の日給を支給することゝはなりたり（つゞく）

●贋造紙幣行使者

…拂ひの中に六千餘圓…

一昨日午後六時頃南部美洞の某韓人米屋に一名の韓人入り來り米を求めて一圓紙幣を差し出し『此れで取り異れよ』と手渡しせんとする刹那折柄通行の巡査が右のヨボは何と思ひしが其の金を懷中に押し込む樣子の如何にも怪しと見て取り巡査は早速引き捕へ南部署に引致し取り調べたる所其の十圓紙幣といふは第一銀行の偽造券にて尚同人が懷中の袋の中にも澤山十圓の偽紙幣入れありしが其の額六千三百七十圓の巨額に達し居りといふに依て警察署にては犯人を嚴重に禁錮し尚他にも共犯者あらざるやと目下捜索中なりといふ而して此の横着なる韓人は住所不定の呉鳳金といふものなり

●戸籍謄本を偽造す

…前科を隱さんが爲め…

三重縣平民當時旭町二丁目十七番地無職倉田兩次郎（五十）は本年八月中第一銀行支店の小使に雇はれ其際戸籍謄本を差出す樣命せられしが倉田は前科者なるより眞實の謄本を取り寄せては前科者が知れると思ひ惜を明して種々なる印版職高橋金吾に相談し三重縣津市々長及び津市役所の官印を偽造し及び自分を三重縣市字塔世西裏四十八番地倉田兩藏文久元年一月生れと戸籍謄本を偽造し且つ住所氏名を偽り右偽造の官印を押捺せし事が發覺し當時起訴され居りしが一昨日當裁判所に於て重禁錮三年の處刑に處せられたり

●花洞小町の失戀

…意中の人はれ役人……

花開洞に美人なしとは誰が言ひ初めし愛仁川は花町二丁目静亭の女將れ千代といふは年は二八と二九からぬ花の盛りもいつしか仇に過ぎ數ふる年の三十四早や葉櫻の色も香も失せつれど天の成せる麗質とやらはまた却々に捨て難く今でも花開洞小町とさへ呼ばるゝ程なるが此の女近頃不景氣つゞきの所在なさに或る日本掛の横椅長烟管といふしだらな姿で長火鉢の前に坐り折柄客さ凌ぎに波々と注ぐコップ酒微醉機嫌に成る
「あります……せん併し一口に搔い摘みますと……失戀の結果とでも申しませうか實は妾しの意中の人といふは統監府の役人なのですよソレも端した役人ではなく大分大頭なのです名前と申されますと當惑しますが實は東京に居る時分其の方の御寵愛を受けて居りましたが朝鮮へ來てからスッカリ見限りになつたものですから妾は後を慕つて參つた次第何れ二三日の中にれ屋敷に乗り込んで啖呵を切る積りです……」知らず其の歷々たるれ役人とは果して誰ぞはぬが知つて當座の花なるべし

●店員評判記

中村運送店主任 [illegible]氏

氏は幼少より貿易業者たらんと志した、從つて年の割には斯業の閲歴に富んで居る生國は福岡縣八女郡、年少にして土地の商業學校を卒業し同時に同縣の磚茶合資會社に入り工場の監督及會計掛の重任を帶びて居る事二年にして職を辭し後渤海に渡つて大に計畫する所があつたが思ふ所ありて一旦郷里に歸り更に神戸宇和商會に入つて大に得意の辣腕を振つた在店四年折柄の日露戰爭に補充兵として出征し除隊後開城に渡りてある事業を經營し大に得る所あつた中村運送店に入つたのが昨年の春今では主人の片腕となつて居る氏白面無髯楚々として氣品高く身を持する常に端正である

同店員 柳瀬吉藏氏

氏が現今の地位は會計兼集金係りである、言ふ迄もなく集金係りの職責たる其の任極めて重く、一厘一毛の微と雖もれろそかには出來ぬ而も氏は本年僅か十六歳の少年なるにも拘はらず、テキハキと此の重任を果たし、未だ曾て違算錯誤のあつた例がない而己ならず集金に掛けての腕は却々達者なもので、言辭巧妙、應接自在、大人と雖も企及し能はざる程である、生れは三重縣慧敏犀利の氣象が常に表に溢れて居る次に主人といふは名は芳松、京城運輸組の組長として將た通關代辯業として名聲遍く、斯業者間の重鎭であるが、店員は何れも主人の寛容にして慈悲の念深きに感じ身を以て店務に鞅掌して居る

人に向つて吐いた五色の氣焰といふを耳にしたるまゝを愛許チョッピリと言上仕らん「房弱い女の身を以とて申しますとナンですけれど妾が此の朝鮮に參りましたのは今年の七月アラマー御冗談……艶け落ちなざといふ意氣筋ちやありませんよツレはそう違う見ねても妾しは東京の新橋で鳴らしたもんでサ作偉萬吉ッさんといツたら姐さん株ちやア顏の賣れてる方でしたツレガ貴郎此の朝鮮迄流れ來て苦勞をするといふのも此にはダン〳〵村組のある事トチも一晩や二晩で喋れるもんぢやア

●藝妓のドロン

……四百圓の前借……

龍山北海樓の抱へ藝妓高平スエ（十七）といふは平素より口癖のやうに『早くれ嫁に行きたいワ』と嘆息し居りしは宜きも誰あつて世話して呉れる人なきより自分にて嫁入口を探し當てたものか去る頃家人の寢鎭つた頃を見計らひ密ット樓を抜け出で何れへかドロンを極め込みたるがサテ其の行く先きをダン〳〵探つて見ると愛に先頭より京城壽座に於て開演中なる馬の脚で舞臺の上ではいつも難の役割に勤め居る坂本とかいふ役者の許に身を潜め朝な夕なに乳繰り合つて暮し居るとの事なるが話し樓つて北海樓にては本年四月四百圓といふ大金を貸した大事の玉が姿を隱したので其の騷ぎは一方ならず笛、太鼓、三筋線で、ドンチャカ〳〵スエの在り家を尋ね〳〵りしも更に判らず依て已むなく二三日前其の筋へ屆け出でたりと

●一昨日の暴風雨

…雨三日は寒氣烈しからん…

去二十五日午後十時渤海に現はれし低氣壓は昨朝黄海北部に來り漸次東進に伴ひ當地に於ては午前四時より氣壓の下降著しく六時二十分雨歇降り七時三十分雷鳴さへ加はり十時二十分降雨歇みたる後は風力加はり午後一時二十分烈風に達し氣壓の沈降と共に風力益々猛烈にして午後一時五十分最強風速度十八米七を測れり之れ既往の觀測に徵するに本年一月二十日二十一米五の次位にありて實に一間平方凡三十八貫の壓力に相當す午後二時氣壓は最低七百五十七耗を示したり然るに低氣壓遠かるゝと雖も氣壓の回復急峻にして風力減退せず昨朝までは持續し北西の寒風が送れり爾後此の雨三日は滿州地方の高氣壓發達し寒氣の増進を促すならん

●仁川港船舶被害

一昨日の暴風雨に際し仁川港に碇泊せる船舶は却々の損害を蒙り沈沒、破損、行衛不明となりたるもの少なからざるが其の船名及び被害の狀況並びに損害額は左の如し

組名	隻數（被害）	損害額
朝日組	八隻（破損）	六千圓
榮組	四隻（同）	八百圓
木村組	四隻（同）	七百圓
永石組	一隻（同）	四百圓
江口組	一隻（同）一隻（沈沒）	千二百圓
龜田組	三隻（同）一隻（同）	千三百圓
八田組	一隻（同）一隻（行衛不明）	不明

此他損害の重なるものは仁川停車場より萬石洞に至る海岸二町餘の大破損等なり

●[illegible]

と變らぬ模樣なるが近頃不景氣の風が吹きすさんでゐるので少しく不印の樣子也扨て一昨晚の登樓客は高島屋へ四人月下樓へ九人大桝屋へ七人山遊樓同しく七人第一本店九人同支店五人井門樓六人京城樓五人滿月樓五八松榮樓一人此の費消高四百九十七圓九十九錢とは知られたり

（新刊紹介）

●日本經濟新誌 有益なる記事十數種中に就て「行政整理の局外觀」「輸出製果戻税を賛す」「職業其のものを目的とせよ」「經濟財政金融策」等は出色のものといふべし（四卷四號、部十一錢東京々橋區南紺屋町日本經濟雜誌社）

●東京經濟雜誌 「金融の景况」は依例本號の附物なり次で「清國兩宮の崩御」「印度の金貨本位準備金」「臺灣統治の成績」等何れも讀むべきものとなす（五十八卷一四六號一部十一錢東京々橋區彌左衛門町東京經濟雜誌社）

●警察月報 內容は法令、例規、日本國法令、雜錄の五項目に分つ總て九月中の新法令及び出來事は收めて此の中にありといふべし（三號）

●韓國中央農會報 重要記事は「日本牛與韓牛との關係」「北韓の農業奬勵と畜牛增殖」「韓國森林山野の國有私有區別方策」等數種なり（二卷九號一部二十錢京城大和町二丁目韓國中央農會）

●商業會議所月報 十月中の調査なり目次は會議所記事の外に金融、金融統計、京城商况、物價表、工職賃金表等なり（十九號京城日本人會商議所）

●週刊新聞サンデー 今回森山吐虹氏會社白蛇氏主等の幸の下に太平洋通信社より發刊したる同紙は每日曜日を以て發刊する週刊にして模範を歐米諸國の同種新聞に取り体裁頗る美術的なる上時勢と關連して記事正確趣味亦饒多なれば一たびこれを繙けば日刊新聞の特色と普通雜誌の特色とを併せ味ふを得べし且其保存に便なる點は日常の參考用としても本紙の尤も特色とする所なるべし（一部金十二錢東京市京橋區元數寄屋町三ノ四太平洋通信社）

落語

小鳥丸（二）

桂文治

己「祈を見て内々昔じやらうちやアないかァ、アンまれ難ぎせん上りの[illegible]にはァン[illegible]されて默つても居ア、旦那の[illegible][illegible]ありゃない、一此方[illegible]まで[illegible]が悪い十と店の者もニッチもサッチも[illegible]して居るが、流石に其れでも[illegible]しかねて居る。或る日の事出入りの[illegible]どいふ、其の名の男[illegible]「へ[illegible]日は」源「ヲヤ旦那樣、ホヽ此方へお入りな」勝「旦那れ手遊までござりますなら、一寸見て頂きたいものがあるんで」源「何だね」勝「ナニ、今[illegible]で[illegible]なつて本を[illegible]貸つてみんで、何だか面白さうな本だと思つれから借りて來ましたが、本字が多くつて私にやア讀めねえから、一寸旦那に讀んで戴ひ申てわせ思ふんで……」源「何の本だ、ドレ〳〵見せ……。アヽ是れは面白い、川柳の本だ」勝「ヘエー成程、川柳とか何とか申ひましたよ、[illegible]三ッ讀んで見て[illegible]んなさい」源「ウム、古い口調だが[illegible]のがあるね」勝「エ」源「サア事だ[illegible]小便渡し舟」勝「成程、是へねね、是やア私も覺えがありますせ、渡し舟へ馬と合乗りをして、向ふを向いて居ると、奥樣ギャア〳〵雷がするから、振返つて見ると馬の畜生小便をして居やがるんで、川の中へ飛び出す譯にやア往かず、どうも酷い目に遇つたことがありましたが、眞正に川柳なんて妙なものは、旨いことをいつたもんですね、まだ宜いのがありますかね」源「エート、手前まで來れ斬はまずれ走はまァ」勝「是れは何の事でござります」主「是れはね、鷹狩の男へ三人の小冠をいつたものだ手前まアは鷹狩の小冠、れ前まアは御殿、走はまアは女房だ、僅かの中に三人の情をさう種を明されちやア、只聞いたばかりぢやア判りません」主「手品でも使やしまいし、種を明すは可笑いね」勝「どうぞ種を明して頂ひ申ます」源「父さんや此の提灯は母さんか。宜い情愛だね」勝「ヘエー、何か情愛がありますね」源「判らないかね。阿母が亡なつて、親父は阿母さん〳〵といつて、泣くので親父も胸が一杯になつて、阿母さんは此の御提灯になつたといふ。其れぞ父さんや此の提灯が母さんかと、子供の情をいつたのだ」勝「アヽ、其れやア私共の隣家の子もやりました」源「ヘエー感心だね、どんな事をやつたのだね」勝「去年の暮にさういつてました。阿母さんモウ十寝ると正月が……」源「其れは川柳ちやアない」勝「ヘエー川柳になりませんか、モウ一つ讀んで下さい」源「ウム、居候三杯目にはそつと出し、是れは昔の居候だね」勝「ヘエー、今の居候は違ひますか」

●新聞料 ●廣告料

發行兼編輯人 秋山忠三郎

印刷人 高木久尾太

發行所 京城新聞社 電話六六三番